

公慶上人と大仏殿再興

平岡昇修

2016年3月2日

1 公慶上人と大仏殿再興

公慶上人は、1648年、丹後国宮津に鷹山頼茂の第7子として生まれました。3歳の時、父は藩を退いて南都の高山に住まいます。1660年（13歳）12月9日、東大寺大喜院に入寺。12月15日、雨の降る日に大仏を拝して、「自分には傘があるが大仏さまは風雨に曝されたままだ」と嘆いて涙し、大仏殿再興の志を發しました。大仏殿は1567年に兵火で炎上して100年、仮屋も1610年の大風で倒壊して、大仏は50年間露座のまま風雨に曝されていたのです。

1.1 重源上人の先例に学び勸進を行う

[37歳]

5月、「天下の仏心を集めて、一仏となす」「大仏は天下の大仏にして、吾の大仏にあらず」という言葉を掲げ、幕府に大仏殿再興と、そのための諸国勸進の許しをこいました。6月には、幕府の威光による勸(かん)化(げ)は不許可とするが、東大寺が私的におこなう勸化は禁止しないという消極的な勸進の許可を得ました。

[38歳]

5月には、江戸・京都・大阪、そのほか都市化している所へ勸進することによって実質的な効果を挙げようと考えます。6月からは、江戸浅草の長寿院を勸進の根拠地と設定、大仏縁起を講じ、観音像をはじめとする宝物を拝観に供して勸進をおこないました。11月29日、東大寺大喜院で大仏縁起の講談を行い、鎌倉時代の再興勸進の時に重源上人が使用した勸進杓(宝珠杓)ほかの霊宝を展示して大仏の勸進をはじめます。日を追って群衆が集まり、奈良町に勸進を取り持つ講中が結成されるまでになりました。縁起の講談と宝物拝観という出開帳方式をとる公慶上人の勸進は、都市を中心とする民衆の靈験や現世利益を求める信仰心に訴え、日一日と浄財喜捨の数を増やしていきました。

[39歳]

7月19日、父、頼茂が死亡。いまや大仏造頭こそが、唯一父の菩提への道であると考えに至ります。そして、公慶上人はひたすら重源上人の先例にならおうとして、重源上人が用いた鉦鼓を持ち出し、これを打ち鳴らして町々を勸進して歩きました。

1.2 大仏開眼供養の参詣人で溢れ返った奈良

[41 歳]

閏4月2日より8日にかけての大仏殿「手斧(ちょうな)始め」の儀式には、出仕僧710名、大工500人、結願の日の8日の見物人は68万人におよび、東大寺周辺に営業の仮小屋の茶店は80軒(一軒あたり83万円—現代の価格に換算、以下同じ—の利益)、大阪と奈良をつなぐ暗峠には籠1600丁(客は3万円を安いと言って乗りました)、木津川の渡しは7日間で75万円、春日大社の賽銭は7日間で2500万円、他の社寺でも平素の100倍の収入がありました。

[45 歳]

着手以来6ヶ年、大仏の修復が完成しました。総費用金11178両と銀1匁(12億円)。そして、3月8日より4月8日までの1ヶ月にわたっておごそかに大仏開眼供養が営まれます。12899人の出仕僧と俗人205303人の合計218202人が集まり、参詣人は1ヶ月で約30万人。奈良は人口の10倍の人々で溢れ返り、奈良町中の旅籠屋1000軒の利益は500万円余りに達しました。参詣人らは、まず東大寺の勧進所に立ち寄って寄進をし、若草山に登って大仏を見下ろしては猿沢池で遊びました。猿沢池では数10万人が鯉に煎餅・饅頭を与えために、もう餌を求めて水面に現れる鯉鮒はいなくなったといわれたほどで、替わりに鹿が飛び込んでこれを食べていたと記されています。旅籠も空部屋がなくなり、個人の家でも部屋が空いていれば宿泊させてよいということにもなりました。参詣者は群れを成し、他の南都の寺院も盛んに開帳しました。それらの寺院にとっては、大仏開眼供養参詣人をあてこんでの仏閣修理費調達策でした。大仏開眼供養が終わって間もなく、公慶上人は病に伏します。公慶上人は大仏の修補が完成するまでは横になって寝ないという誓いを立てて、7年間座ったまま睡眠をとっていたのです。その公慶上人が4月7日に初めて横になって寝たわけです。そして中頃以降1ヶ月をかけて病気を患いました。さらに8月20日、公慶の母、春光院が77歳で亡くなります。

1.3 将軍綱吉の生母・桂昌院を動かす

[46 歳]

2月29日、公慶上人は、初めて綱吉の生母桂昌院に大仏縁起を講じ、宝物を見せます。これによって桂昌院は大仏に深く帰依するようになり、上人に金子を寄進しました。そしてこの後、莫大な援助が与えられるのです。その後も公慶上人は江戸にのぼるごとに桂昌院を訪ね、そのたび寄進を受けることになりました。桂昌院が動き出したことは、事実上、幕府が動き出したことでもあります。大仏開眼成就の後の公慶上人は、幕府からにわかにより優遇されるようになります。

[48 歳]

幕府の大仏殿再建に対する政策転換の背景には、桂昌院個人の崇仏心とその一族の意志があったことは確かでしょう。

[50 歳]

11月以降、大仏殿復興事業は新しい段階を迎えました。これまでは東大寺の事業でしたが、公的

な性格を帯びることになったのです。

[58 歳]

(1705 年) 閏 4 月 10 日、大仏殿の上棟式が行われました。当初、大仏殿再興に充てられた費用は 3 万両 (30 億円) でしたが、ついには 18 万両 (180 億円) を数えました。6 月 22 日、桂昌院は 79 歳の生涯を閉じます。公慶上人の大仏殿再興の大願は多くの人々に支えられて完成されましたが、「公私領を問わず 100 石につき金 1 分の奉加」というところまで進まなければ成就しなかったでしょう。それを可能としたのが桂昌院の働きかけでした。22 年間を大 仏殿再建に尽くした公慶上人も、7 月 12 日、58 歳 (数え年) で入寂しました。

1.4 12 万 1300 両を要した大仏殿再興

1708 年 (宝永 5 年) 6 月 26 日、大仏殿は完成し、公儀から龍松院公盛に引き渡されました。1709 年 (同 6 年) 1 月 10 日、五代将軍綱吉は大仏殿供養も見ずして病死。大仏殿供養は 3 月 21 日に開白され、4 月 8 日まで 18 日間執行されました。大仏殿完成までに要した費用は、12 万 1294 両と銀 3 匁 2 分 8 厘 (約 130 億円)、このうち 1 万 206 両と銀 5 匁 (約 12 億円) が勸進で集められたものでした。